

ならないので大変なことである。

- そこに実際に会館ができれば、こういうこともやってみようとか需要が生まれてくるのではないか。
- 外部の人がきて主催しても、つくし野の人が利用できる教室などをやればつくし野のためになる。
- センターを利用しづらい団体が定期利用を活用すれば需要はあると思う。
- 提案して議論して納得してもらえなければしょうがない。初年度から当分は30万円ぐらいの収入があれば当面はやっていける。40%まで行くかというのはわからないが、それは地域づくりをやる意味でも努力をしなければならぬ。
- 千円に利用料を設定するのか600円に設定するのか。金額を高め設定すれば収入見込みが上がるのは当たり前である。高めに設定すればお客さんが来ないのではないか。
- お金ではないのではないか。使いやすさだと思う。
- 自治会館は遠いから使いにくい。
- 競争という意味ではモデル④の25㎡の部屋を500円、50㎡の部屋を900円としたらどうか。
- 当初は運営費をカバーできるというのはわかるが、徐々に修繕積立金などを賄うために利用者を増やしていかなければならないが、それは確実ではないということは自治会に説明したほうがいい。
- 活用してもらえそうな施設を作らなければならぬ。
- 一生懸命に需要を開発してまでなぜ建てるのか。会館というのは需要があるから建てるのではないか。営業努力をしなければ維持できないということになぜ建てるのかが理解できない。
- 需要というのは現在ある顕在的需要を見るのか掘り起こせば出てくる潜在的需要を見込むかだと思う。
- なぜ掘り起こさなければいけないのか。
- 長野県は地域に高齢者が集まれる集会所があり体操したりおしゃべりをしたりして健康を維持している。高齢者が集まれる場所を提供するのも需要を掘り起こす目的である。
高齢者だけでなく学習塾などの業者に使ってもらってもつくし野の子供たちのためになる。
営業でなく場所を提供するだけで需要は広がっていくと思う。
- 一人暮らしの高齢者はつくし野に大勢いる。マージャンができるところを提供するとか需要はある。
- 数年前に4自治会でどこかに自治会館があったほうがいいなというのでスタートした。いろいろ分析してきてお金の面を考えると若干心が折れているが、大きなものだから失敗したら大変だけど手を出してみないとわからない。希望的なものもあるが、努力すれば増えるのではないかということで、小さな火を大きくしていきたいなと思う。

4 今後の対応

- 8月9日までの7月末から8月までにメールで、このようにまとめたらどうかをやり取りして、A3裏表ぐらいの骨子にして、その後各自治会に説明に回る。
- 市民協働推進課の訪問は、市と日程調整して7月末に委員長と副委員長、鈴木委員長で訪問する。

5 次回会合日程 8月9日(金) 19時半～ つくし野センター第1会議室

以上